

総合理工学インスティテュート

【2024年度大学評価総評】

IISTは母体となる情報科学研究科・理工学研究科の自己点検・評価結果を大学評価委員会として大学評価を行っている。総評は情報科学研究科と理工学研究科の内容と同じ。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。
-------------------------------------	---------------------------------------

【2024年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①インスティテュートごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②インスティテュートごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
IIST ホームページ	

基準2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①インスティテュートにおいて、運営委員長及び運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②インスティテュートにおいて、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学大学院総合理工学インスティテュート（IIST）運営委員会規程、IIST 運営委員会議事録	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

部局による自己点検・評価は実施しない

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①修士課程・博士課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやす	はい

く示していますか。	
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
情報科学研究科・理工学研究科の3つのポリシー	

基準6 教員・教員組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準7 学生支援

部局による自己点検・評価は実施しない

基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	

基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023年度大学評価結果総評】（参考）
IISTでは2016年9月に設立されて以来順調に入学者数が増加し、開設当初から倍増している。また応募者数も増加しており、特に欧米からの応募者が表れていること、内部進学する学生が多いことなど、

学生の受け入れについて順調に成果を上げられていることを評価したい。

時代のニーズに沿って、横断的学びのフィールドの見直し、IIST 重点分野とするインテリジェントロボティクス、データサイエンス分野の受け入れ実績の上昇、専攻横断的な教員組織の構築に向けて努力されていることに敬意を表したい。今後の進展が期待される。IIST の Web ページの活用による効果的な広報活動も期待したい。

教育課程・学習成果については、新規専任教員による新しい英語科目の開講、および IIST 主催科目の有効利用とともに、英語科目を追加できる仕組みの導入によって英語科目が充実された点は評価に値する。とはいえ、各専攻主催科目におけるさらなる英語科目の増加は今後の課題でもあり、2023 年度目標にも英語科目の充実が掲げられており、今後の成果を期待したい。学習成果としては、修了生及び在学生の公表論文数が 30 件であったということから、質の高い学生の確保ができていますと高く評価できる。

【2023 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

引き続き様々なオンライン日本留学セミナーに参加し、IIST の広報活動に取り組む。また、定期的に海外大学を訪問し、IIST の影響力を高めるとともに、海外の大学との間で MOU の締結を検討し、優秀な学生を IIST へ推薦できるような仕組みについても検討する。

IIST の Web ページは、さらなるコンテンツ充実のために改善し、優れた IIST の教員や学生に関する情報や魅力的な研究成果などを掲載する。また、新たに設置した科目について、教育の質向上に取り組む。

2 各基準の改善・向上

基準 5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<p>5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		

III 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	<p>既存の6つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Netwo 今後グローバルにますます重要となるデータサイエンス分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。)を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。</p>
年度目標	<p>今後グローバルにますます重要となるデータサイエンス分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。</p>
達成指標	<p>関連するセミナー、ワークショップ、シンポジウム等の開催状況</p>
<p>教授会執行部による点検・評価</p>	

年度末報告	自己評価	A
	理由	データサイエンス分野における留学生のニーズに応えるために、グローバルに活躍する関連研究者を各国から招くセミナーを7回(前年比1回増)開催した。
	改善策	関連セミナーを継続的に実施し、学生のニーズにさらに応えるようインスティテュートの課程・組織の見直しも踏まえつつ、活動をさらに拡大する。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
年度目標		IIST 設置科目の体系化を検討する。特に、新設を目指す2フィールドのカリキュラムを確定させ、英語科目の充実をはかる。
達成指標		英語科目の実施数
教授会執行部による点検・評価		
年度末報告	自己評価	A
	理由	英語科目数は2021年度86→2022年度96→2023年度97と着実に充実が進展している。
	改善策	さらなる充実を図る。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
年度目標		継続してIIST学生の発表論文リストを作成し学修成果を評価する。また、IISTコロキウムとしてIIST学生の研究成果発表の機会を設ける。
達成指標		ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数
教授会執行部による点検・評価		
年度末報告	自己評価	S
	理由	従来に続き研究発表論文数を調査し、修了生及び在学生の公表論文数33件(前年度30)、うちジャーナル7件(前年度6)、学会表彰2件など高水準で、さらなる研究活発化が進展していることを確認した。
	改善策	—
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
年度目標		定員充足を達成しつつ、ガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別し、質の確保をめざす。
達成指標		定員充足率、入学後の研究成果
教授会執行部による点検・評価		
年度末報告	自己評価	S
	理由	入学者数15名と募集定員に対し充足率100%を達成した。また上記研究成果発表状況に見られるように、継続して質の高い学生を確保できている。優秀な学生の確保のため、オンラインも併用した海外大学での説明会参加などの積極的な広報活動も継続している。
	改善策	—
評価基準		教員・教員組織
中期目標		英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
年度目標		IIST担当の任期付き教員と他IIST教員との連携をはかり、受け入れ可能な留学生数を増加させる。
達成指標		英語による講義・研究指導対応教員数
教授会執行部による点検・評価		
年度末	自己評価	A
	理由	上記のように英語による講義は増加しており、また2教員が初めてIIST留学生を受け入れるなど研究指導対応教員体制の充実は着実に進展している。

報告	改善策	さらに英語による講義、研究指導対応教員を増加させる。
評価基準		学生支援
中期目標		学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
年度目標		2020 年度より実施している修了後進路調査・進路希望調査を充実させ、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
達成指標		進学・就職率
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	修了後進路調査・進路希望調査、新入生（在学生）と修了生との情報交換も行われている。在校生アンケートも行われている。
	改善策	意見交換会やアンケート調査をもとに、キャリアセンターと連携する。進学相談会を活発化する。
評価基準		社会貢献・社会連携
中期目標		研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
年度目標		教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
達成指標		刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	上記のようにジャーナル7件を含む公表論文数33件、学会表彰2件など研究成果は高水準で、優れたグローバル人材を輩出し続けている。
	改善策	グローバルな発信など社会貢献を継続する。
<p>【重点目標】 教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外提携(候補)校訪問、説明会実施、SNS も利用した情報発信等のコミュニケーション強化による受け入れ学生の質向上 ・海外の一流の研究者と共同でのコロキウム・ワークショップ等の実施 ・ジャーナル論文・査読付き国際会議等学外発表、博士進学への動機付け <p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>IIST への SGU 支援は終了となるが、これまでの実績をもとに事業継続が認められ、自走化が可能になった。教員・事務部門の協働により、高レベルな学生の受け入れ、受け入れ学生の教育・研究成果の充実、修了学生の進路、国際貢献など多方面で十分に年度目標を達成した。</p> <p>ただし現状のシステムでは、留学生を受け入れても実験実習費等の研究室への配分が費用を賄えるほど十分には増えず、教育研究活動を圧迫しているという課題がある。よって、積極的な留学生受け入れの促進のため、受け入れに応じて予算が増えるような手立てを講じることが、実効的でサステナブルな運営に必要である。</p>		

IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	既存の 6 つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering) を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。

年度目標	AI 技術は、既存の 6 つの横断的学びのフィールドの共通の基盤となっている。2024 年の IIST 在籍学生を対象にした調査とその学生の予想される研究に関する調査を実施し、人工知能関連のコースを強化する。オンライン/オフラインのセミナーやワークショップを開催し、新しい研究分野をカバーしてさらなる展開を図る。
達成指標	関連する調査、セミナー、ワークショップ等の開催状況
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
年度目標	各フィールド設置科目の体系化を検討する。特に、フィールド横断的 AI テクノロジーの英語科目の充実を図り、学生への周知を徹底する。
達成指標	英語科目の実施数、AI 関連科目の数
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
年度目標	IIST 学生の発表論文リストを継続的に作成し、学修成果を評価する。また、学会で受賞した IIST 学生の情報は、適切な時期に IIST のウェブサイトに掲載する。
達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数、学会での受賞数
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
年度目標	IIST プログラムをより広く宣伝するために、IIST のウェブサイトを活用するとともに、海外の大学を訪問する。事前マッチングと面接を通じて、優秀な学生を確保する。
達成指標	定員充足率、入学後の研究成果
評価基準	教員・教員組織
中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
年度目標	IIST 教員と任期付教員または外部の教員と連携して、より多くの英語の科目を開講する。また、研究指導を担う教員を増やす。
達成指標	英語による講義・研究指導対応教員数
評価基準	学生支援
中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
年度目標	学内外の奨学金に関する情報を積極的に提供する。前年度より実施している修了後進路調査・進路希望調査を充実させ、進学・就職に関するより多くの情報とアドバイスを提供する。
達成指標	進学・就職率
評価基準	社会貢献・社会連携
中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
達成指標	刊行・発表論文数、学会での受賞数、博士進学数、社会のグローバル化を担う人材輩出数
<p>【重点目標】 研究能力レベルの高い学生を恒常的に確保する、教育内容・研究指導を充実させ優れた人材を輩出する</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き様々なオンライン日本留学セミナーに参加し、海外での広報活動を行う。また、定期的に海外の大学を訪問し、IIST の影響力を高める。さらに、海外の大学との間で MOU の締結を試み、優秀な学生を IIST へ推薦できるような仕組みについても検討する。 海外の一流の研究者と共同でオンライン・オフラインのセミナー・ワークショップ等の実施する。 ジャーナル論文・査読付き国際会議等学外発表を推奨し、博士進学への動機付けを行う。 	